

特集

ここまで進歩した生物学的製剤と分子標的薬

1. リウマチ性疾患井上 祐三朗
2. 膠原病・血管炎秋岡 親司
3. 血液疾患鈴木 伸明
4. 悪性腫瘍嶋田 明
5. 感染症新妻 隆広
6. 神経・筋疾患九鬼 一郎
7. 腎泌尿器疾患貝藤 裕史
8. 消化器疾患新井 勝大
9. アレルギー疾患濱野 翔
10. 皮膚疾患橋本 玲奈

●目で見える小児科

化学療法後好中球減少症を合併し画像診断により

肛門周囲感染症を疑った1例目黒 美結 ほか

●総説

血球テロメア長測定の臨床的意義成田 敦

完全型アンドロゲン不応症の病態・診断・治療井澤 雅子

小児の鎮静におけるカプノグラフィによるモニタリング久我 修二

●オピニオン

新型コロナウイルス感染症禍における小児医療状況の変化辻 健史 ほか

●症例

就労移行支援により一般就労が可能となった場面緘黙および

社交不安症併存の1例秋谷 進 ほか

●診療

海外在留小児てんかん患者の現状と課題

——在外日系クリニックの視点から長澤 哲郎 ほか

●経験

公社病院における新型コロナウイルス感染症重点病院化への経験

——小児科での対応について及川 洸輔 ほか

●[連載] 最近の外国業績より

栄養・代謝・内分泌日本医科大学小児科学教室

(編集の都合により、一部変更される場合があります)